

近代化への歩みを象徴する煉瓦造アーチ橋

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第066号
名称(型式等)	上勝田第1アーチ橋
所在地	千葉県佐倉市上勝田
設立(竣工)年	明治30(1897)年

選定理由

千葉県で初めて総武鉄道(現在の JR 東日本総武本線)が、明治 27 (1894) 年 7 月に市川～佐倉間で開業しました。同年 12 月には市川～本所(現在の錦糸町)間が開通し、明治 30 (1897) 年 5 月には佐倉～成東間、同年 6 月には成東～銚子間が開通しました。上勝田第 1 アーチ橋は、南酒々井～榎戸間にある煉瓦造りのアーチ橋です。明治 30 年の開通に伴い、農道を跨ぐために建設されました。

延長は 19.6m、径間は 3.66m です。面壁には一般的な赤煉瓦が用いられており、「イギリス積み」という長手のみの段と小口のみの段が交互に見える方法で積み重ねられています。アーチリングの巻厚は 4 枚巻で、「鼻黒煉瓦」という表に見える小口の部分を高温焼成(焼き過ぎ)した黒褐色の煉瓦が使用されています。笠石の部分には、逆階段状に積んだシンプルな「軒蛇腹」が見られます。「軒蛇腹」にも焼過煉瓦が使用されており、赤煉瓦の中に配された黒褐色の煉瓦がこのアーチ橋のアクセントとなっています。焼過煉瓦は表面が溶解し、吸水率が低いので耐水性に優れているという特徴があります。内部のアーチ部は長手のみ見える「長手積み」で、下半分の側壁は「イギリス積」です。一部、大型車の接触跡がありますが修復がなされています。両翼壁は石材を斜めに組み合わせて積む「谷積み」です。これは水平方向に力が作用する構造物に採用される積み方です。

関東地方では最も遅くに開業した千葉県の鉄道ですが、その後鉄道建設は急速に進み、昭和初期にはほぼ現在の鉄道網が完成しました。近代化への歩みを象徴する明治期の煉瓦造りの建造物は、今なお多くが現役で活躍しています。上勝田第 1 アーチ橋は「JR 東日本の歴史的建造物」[平成 2 (1990) 年]、「日本の近代土木遺産一現存する重要な土木構造物 2800 選」[平成 17 (2005) 年]に選ばれています。



西側



内部



総武本線通過

協力：東日本旅客鉄道株式会社千葉支社

参考：「千葉県史 明治編」1962

「JR 東日本の歴史的建造物」1990

「日本煉瓦史の研究」法政大学出版局 1999 ほか